平成　23　年度　事務事業評価シート(平成　22　年度実施事業)

整理番号	教生社12

事務事業名	青少年野外活動施設整備事業	予算科目 会計	1 一　般　会　計
総合基本計画 まちづくりの目標(章)	3 次代を担う子どもを育むまち	款	10 教育費
施策(節)	3 青少年の健全育成	項	5 社会教育費
施策の方向	(2) 健全育成の環境づくり	目	2 青少年育成費
関連する計画等		事業	55 青少年野外活動施設整備
		作成部署	教育委員会事務局生涯学習室社会教育課
		連絡先	072 - 958 - 1111　　内線　4451

事業の目的

対象（誰を・何を）

主として青少年

意図（どういう状態にしたいのか）

自然とふれあえる体験活動の場を提供し、野外活動を通じて青少年の健全な育成を図る。

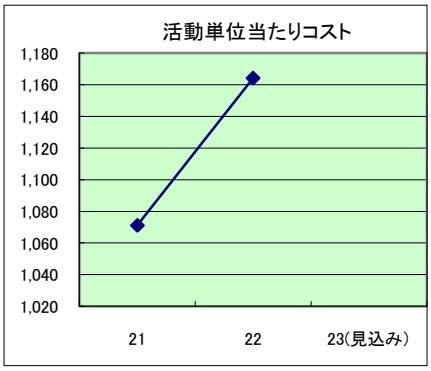
事業の内容

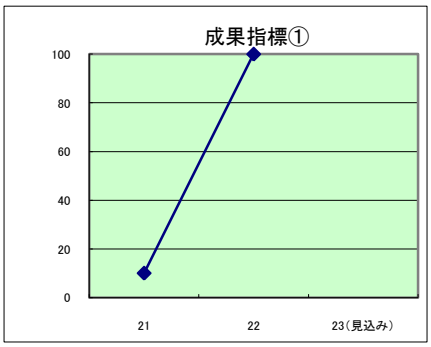
平成２１年度にオープンした駒ヶ谷グレープヒルスポーツ公園キャンプ場「ふれ愛広場」の附帯設備として、管理棟２Ｆに宿泊室を整備するため、平成２２年度に空調設備や電気設備、合併浄化槽を設置する工事等を実施した。

根拠法令等	グレープヒルスポーツ公園条例
事業開始時期	☐ 昭和　20　年開始　☐ 明確にはわからない　／　☑ 平成　☐ 市制施行（昭和34年）以前より行っている　　終了年度：平成 22 年度
事業開始時からの状況変化	グレープヒルスポーツ公園にふれ愛広場と宿泊室をオープンする。
市民や議会の要望	身近で手軽に利用できる野外活動施設として、より充実した施設になるよう要望がある。
実施手法	☐ 直営　☐ 一部委託　☐ 全部委託　☐ 補助金・助成金　☑ その他(外注工事)
委託先	☐ 市外郭団体委託　名称（　　）　☐ 民間委託　☐ その他　／　委託内容：

区　分		21年度（実績）	22年度（実績）	23年度（見込み）
事業費【1】	（千円）	10,060	7,358	0
人件費【2】	（千円）	3,000	1,440	0
職員数	正規職員	0.40　人	0.20　人	0.00　人
	再任用職員	0.00　人	0.00　人	0.00　人
	嘱託職員	0.00　人	0.00　人	0.00　人
	臨時職員	0.00　人	0.00　人	0.00　人
	超過勤務(参考)（時間）	0.00　時間	0.00　時間	0.00　時間
総事業費（【1】＋【2】）【A】	（千円）	13,060	8,798	0
財源内訳	国費（千円）		7,358	
	府費（千円）			
	市債（千円）			
	その他　（手数料・使用料等）（千円）			
	一般財源（千円）	13,060	1,440	0

活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① ふれ愛広場整備事業	千円	12,193	7,557	0
②				
③				
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		1,071　円	1,164　円	円
市民１人当たりコスト(【A】／人口)		110　円	75　円	0　円





成果指標（事業目的の達成度を測る指標）

	指標名	単位	指標設定の考え方		平成21年度	平成22年度		平成23年度
①	ふれ愛広場整備率	%	事業の進捗状況	目標	100	100	達成率(%)	
	（式）事業決算÷（事業計画＋決算額）（累計）			実績	10	100	100.0%	
②				目標			達成率(%)	
	（式）			実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	青少年の健全育成を推進するにあたり、ｷｬﾝﾌﾟなどの野外活動を手軽に体験できる環境づくりを行う。
		○					○	○			

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☑	☐	☐	手軽に利用できる身近な野外活動施設を整備することは、市民ニーズに合うものと考える。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☑	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☑	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☐	☑	
		国・府の事業と重複していない	☑	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☐	☐	☑	
		緊急性が認められる	☐	☐	☑	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☑	☐	☐	一時的なコストはかかるが、スポーツ公園内に整備することにより、利用料収入や、管理の一元化など管理費用の軽減を見込むことができる。
		受益者負担の割合は適当である	☑	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☑	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☑	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☐	☐	☑	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☑	☐	☐	青少年の健全育成の推進という施策目的は明確で、有効に活用できる。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☑	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☑	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☑	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☑	
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☑	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☑	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☑	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☑	☐	☐	事業は２２年度に完了。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☑	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☑	☐	☐	

担当部局評価

総合評価

☐ 拡大・充実　☐ 現状維持　☐ 方法改善　☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☑ 完了

評価の理由

グレープヒルスポーツ公園のふれ愛広場及び宿泊棟の整備事業は２２年度に完了した。

今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）

施設の適切な運用と運営経費の削減、利用促進等について、指定管理者と十分に協議を行っていく。

行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 拡大・充実　☐ 現状維持　☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託　☐ 縮小　☐ 廃止・休止　☐ 完了	